

平成27年度

運営に関する計画

(最終評価)



大阪市立堀川小学校

大阪市立堀川小学校 平成 27 年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- 年間指導計画をもとに授業づくりを行ったが、6 学年を見通した系統的な付けたい力はまだ明確になっていない。また、財産となった資料や学習指導材も次に生かすために整理と保管が必要である。さらに、児童の読書量には個人差がある。以上のような現状と課題を解決するためにも、継続して研究活動を深めていく必要がある。
- あいさつについては、“誰に対しても”、“場に応じた”ものにはなっていない現状である。また、配慮を要する児童の増加による人的配置も必要であるが、難しい状況もあり、サポート体制を工夫するなど個に応じた指導の必要がある。
- 工事に伴う運動場の使用制限によって児童の体力の低下が懸念される。また、年間を通して安全だけがの少ない生活を送れるようにしなければならない。
- 幼小連携は、打ち合わせを大切にしたが、反省を次に生かせるようさらなる時間の確保も必要である。また、マーチングについても狭い運動場のなかでも地域や保護者の期待に応えるよう、児童に充実感を与えられるようにしていかなければならない。

中期目標

[学力の向上]

- 国語科を中心とした言語活動の充実を図り、指導方法の工夫・改善を行うとともに、児童の言語力や思考力・判断力・表現力の育成を図る。無答をなくし、全国学力・学習状況調査の国語科問題 B の全ての設問に対して全国平均を上回るようにする。
- 児童の読書環境の充実に向け、学校図書館の活性化を図る。家庭読書を啓発したり、図書館ボランティアを活用したりすることにより、読書好きの児童を増やすため、事前に「読書好き」「読書量」等の調査を実施し、その割合を確実に増やす。
- 授業研究会を計画的に実施し、授業力を高める。『質の高い言語活動』を通して、学習の目標を達成していく。

[道徳心・社会性の育成]

- 児童相互の人間形成をつくるため、児童の状況に応じた多様な支援に取り組む。児童一人一人が場に応じた挨拶ができるようにする。実態調査を適宜実施し、評価を明確にする。
- 不登校児童など配慮を要する児童に対する研修に校内外で参加し、組織立てた取り組みを計画的に実施していく。
- 仲間づくりの場を大切にし、学級活動や児童集会活動（縦割り活動を含む）等を充実させる。そのため、児童の意識調査を適宜実施する。
- 対象者が増える特別支援教育を充実させ、「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」を保護者と共に作成していく。個別の指導計画に基づいた指導を充実させ、生活の自立に対して保護者と共に評価できるようにする。

[健康・体力の保持増進]

○児童数の増加、狭い運動場にも対応できる体育科授業と体育的な行事を通して、体力調査で全国平均を下回る種目について、全学年で向上させる。

○けがの予防に努め、前年度の実績を元にけが発生率を抑える。

○健康に関する取り組みや指導を通して、基本的な生活習慣を確立し、「早寝、早起き、朝ごはん」等の実践力を高める。

[本校の特色と課題の克服]

○保護者や地域住民をはじめとする学校関係者の協力を得ながら、伝統あるマーチングをより本校らしい特色あるものに創作する。

○併設する幼稚園と連携を密にし、幼児教育の研修を深め、小学校教育に生かす。

○学校の校内の美化を計画的に推進し、保護者や地域住民より、美しい学校と称賛されるようにする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

[学力の向上]

○国語科・算数科を中心とした言語活動の充実を図り、指導方法の工夫・改善を行うとともに、児童の言語力や思考力・判断力・表現力の育成を図る。無答をなくし、全国学力・学習状況調査の国語科問題Bの全ての設問に対して全国平均を上回るようにする。

○児童の読書環境の充実に向け、学校図書館の活性化を図る。家庭読書を啓発したり、図書館ボランティアを活用したりすることにより、読書好きの児童を増やすため、事前に「読書好き」「読書量」等の調査を実施し、その割合を確実に増やす。

○授業研究会を計画的に実施し、授業力を高め、日頃の教育実践に活用できるようにする。

○これまでに培ってきた言語力をベースに、伝え合い、自ら情報発信する力を養うことでグローバルな人材育成をめざす。

[道徳心・社会性の育成]

○児童相互の人間形成をつくるため、児童の状況に応じた多様な支援に取り組む。児童一人一人が場に応じた挨拶ができるようにする。実態調査を適宜実施し、評価を明確にする。

○不登校児童など配慮を要する児童に対する研修に校内外で参加し、組織立てた取り組みを計画的に実施していく。

○仲間づくりの場を大切にし、学級活動や児童集会活動（縦割り活動を含む）等を充実させる。そのため、児童の意識調査を適宜実施する。

○対象者が増える特別支援教育を充実させ、「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」を保護者と共に作成していく。個別の指導計画に基づいた指導を充実させ、生活の自立に対して保護者と共に評価できるようにする。

[健康・体力の保持増進]

○児童数の増加、狭い運動場にも対応できる体育科授業と体育的な行事を通して、体力調査で全国平均を下回る種目について、全学年で向上させる。

○けがの予防に努め、前年度の実績を元にけが発生率を抑える。

○健康に関する取り組みや指導を通して、基本的な生活習慣を確立し、「早寝、早起き、朝ごはん」等の実践力を高める。

【本校の特色と課題の克服】

- 保護者や地域住民をはじめとする学校関係者の協力を得ながら、伝統あるマーチングをより本校らしい特色あるものに創作する。
- 併設する幼稚園と連携を密にし、幼児教育の研修を深め、小学校教育に生かす。
- 学校の校内の美化を計画的に推進し、保護者や地域住民より、美しい学校と称賛されるようにする。

3 本年度の自己評価結果の総括

【視点 学力の向上】

ペア交流やグループ交流など、授業展開を考えた授業研究会を全学年で22回行うことができた。指導法の工夫改善がなされ、楽しく授業に取り組んでいるという児童は増加した。また、全国学力・学習状況調査の結果では、国語・算数・理科それぞれの教科において全国平均を上回った。今後も、計画的な授業研究を継続して行い学習意欲を高め解答時の無答をなくしていく。さらに、継続して資料、学習指導材の整理と保管を行うとともに、他教科や道徳、特別活動においても言語活動の充実を図る。

「読書好き」「読書量」を増やすことについては、昨年度、学校図書館の電子化に伴い、読書環境が整い読書への関心が高まった。また、週一回の図書館補助員の配置により、図書館運用の人員についても改善された。昨年度の反省をもとに新たな読書アンケートを行った結果、読書に親しんでいる児童が増えていることがわかった。

外国語活動に関するアンケートでは80%以上の児童が「コミュニケーション活動が楽しい」と答えている。来年度も引き続き外国語活動に工夫して取り組み成果を上げたい。

【視点 道徳力・社会性の育成】

児童会を中心にあいさつ運動に取り組み、元気に進んであいさつする児童が増えた。しかし、事前事後の実態調査では自分のあいさつに満足していなかった児童が多かった。自らすすんであいさつする子になるよう取り組みを継続していく。配慮を要する児童については毎月の研修会を実施しを通して、共通理解して指導することができた。また、保護者、特別支援学級担任、学級担任で「個別の指導計画」と「個別の教育支援計画」を確認し、より充実した教育活動を行うことができた。さらに校内サポート委員会の持ち方を工夫し、サポート体制を充実させ効果的な支援ができるようになった。これらの取り組みを引き継ぎ、次年度の支援体制を考える必要がある。仲間づくりに関しては、たてわり班長を中心とした異学年交流を深めることができた。児童がさらに主体的に活動できるようリーダーの育成を図る。

【視点 健康・体力の保持増進】

狭い運動場の中では、体育学習や体育的行事を工夫して行うことができた。様々な取り組みが、体力維持、向上に結び付くように継続していく必要がある。次年度、児童数の増加する中でも運動量を確保できるよう体育の学習での指導法を工夫し、子どもたちにとって「楽しい体育の時間」にすることや積極的に休み時間運動場で遊ぶように声をかけるなどを行い、少しでも体力の保持増進に心がけるようする。

日々の生活指導や目標の設定、健康委員会での呼びかけ、保健便りによる啓発、けがを防ぐ体

操の指導など、安全生活についての意識付けを図った。その結果、医療機関にかかるけがの発生件数は、昨年度より減少した。けがの起きやすい場所を示した「けがマップ」やテレビ朝会や児童集会での呼びかけにより、けがの発生件数が増加しないように安全な生活についての指導を継続して行うことができた。

日々の指導により手洗い・うがい・歯みがきの習慣が身に付いてきた。夏休み・冬休みのチェックカードの結果は、前年度より向上した。さらに安全で健康な生活習慣の定着に向けて家庭の啓発を行い学校と家庭の両方で継続的に指導していく

【視点 本校の特色】

隊形移動など工夫したマーチングの取り組みについて保護者・地域への情報発信を行い実施することで、児童・保護者とも「マーチングに取り組んで良かった」が80%を超えた。来年度のマーチングについてスタイルや指導者をどうするか共通理解を図る。

幼少交流については、事前の打ち合わせ、事後の反省会を丁寧に行い、昨年度以上の児童と園児の密な交流ができた。具体的には各クラスが必ず園児との交流に取り組み、温かいふれ合いの中、園児にやさしくしようとする態度が育った。本年度は、幼稚園の廃園を見越した計画を考え実践することができた。

登校指導後の共通理解、日々の適切な校内整備、環境委員会による清掃点検と表彰等、安全と美化について計画通りに行うことができた。今後、美化については、指導者による点検の徹底と清掃点検の基準を全体に知らせる。登校指導では、指導する重点を全体で確認し、登校指導後は職員朝会で確認、共通理解しさらに学級指導を行う。

大阪市立堀川小学校 平成27年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【視点 学力の向上】</p> <p>① 国語科・算数科で言語活動の充実を図り、指導方法の工夫・改善を行う。児童の意識調査等により意欲の向上を確認し、設問に対する無答率を下げる。また、全国学力・学習状況調査における問題Bに対する傾向と対策を練り、授業において指導を行う。</p> <p>② 児童の読書環境の充実に向け、学校図書館の活性化を図る。「家庭読書」を啓発し、読書好きの児童を増やす。（事前事後に児童の実態調査を実施する）</p> <p>③ 研究授業を計画的に実施し、授業実践を質的に量的に重ねる。算数科の指導法について研究し、授業力を高め具体的な手立てを探る。</p> <p>④ これまで培ってきた言語力をベースに伝え合い自ら情報発信する力を育てる。</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【言語力と論理的思考力の育成】</p> <p>言語力育成のもととなる国語科はもとより算数科の指導においても教材の特性を生かし、焦点化された指導目的を達成できるような言語活動を充実させる。</p> <p style="text-align: right;">（マネジメント改革・グローバル改革）</p>	A
<p>指標 しんだんテスト（国・算）のすべての設問において、正答率が大阪市の平均を上回るようにする。</p>	
<p>取組内容②【読書力の育成】</p> <p>「どくしょつうちょう」を活用し、児童の読む意欲を高めたり、学校だよりなどの配付物で家庭読書を啓発したりすることで、読書好きの児童を増やす。</p> <p style="text-align: right;">（カリキュラム改革）</p>	A
<p>指標 各学年で目標冊数を決め、達成者数がその目標の80%を超えるようにする。</p>	
<p>取組内容③【授業研究の充実】</p> <p>全年で定期的に授業研究を実施し、指導力の向上に取り組む。</p> <p style="text-align: right;">（マネジメント改革・カリキュラム改革・グローバル改革）</p>	A
<p>指標 年間22回以上実施し、成果を問う。</p>	
<p>取組内容④【伝え合う力の育成】</p> <p>1. 簡単な英語を使ってコミュニケーションをしようとする子どもを育む。</p> <p>2. ICT機器を活用して、自分の考えをプレゼンテーションできるような子どもを育てる。</p> <p style="text-align: right;">（カリキュラム改革）</p>	B
<p>指標 1. 英語でのコミュニケーションが楽しい、どちらかといえば楽しいという子どもの割</p>	

合を70%以上にする。(対象: 3~6年生児童)

~~2. ICT機器を使って自分の考えをプレゼンテーションできたという子どもを50%以上にする。(対象: ICT機器を設置した学年児童)~~

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ① ペア交流や班交流などで話し合い活動、説明活動を多く取り入れ、国語や算数の時間を中心として言語活動の充実を図ることに努めてきた。そのため、論理的に考え、表現できる児童が増えているが、多様な課題に応用できるまでに至らなかった。そのため、しんだんテストの算数では、発展的な(思考力を問われる)問題や国語科における記述の問題に課題が残る結果となり、すべての設問における平均を上回ることができなかった。
- ② 読書通帳を活用した学校全体での読書への取り組みや、読書を促す声かけを行い、進んで読書をする児童が増えてきた。読書に対する意識調査では、全学年で80%以上の児童が、読書をすることが好きだと答えた。読書冊数の目標をまだ達成していない児童がいる学級もあるが、年度末までに達成できるよう、各学級で取り組んでいる。
- ③ 本年度は、算数科の授業研究を全学年で計画し、実施できた。その結果、討議会・研修会などを通して、自らの課題を考え、次の授業へと活かしていくことができた。
- ④ 外国語活動に関するアンケートでは、80%以上の児童が、コミュニケーション活動が楽しいと答えた。3. 4年生に関しては、90%を超えた。中学年から外国語活動を実施したことでのコミュニケーション活動に興味・関心を持つ児童が増えた。

次年度への改善点

- ① 指導者の発問を精選していく力の向上、さらなる言語活動の工夫を図るべきである。
- ② 読書の記録の仕方については、再考する必要がある。また、家庭との連携を図る方法についても学校ホームページや配布物だけではなく、さらなる取り組みの工夫が必要である。
- ③ 個々のさらなる指導力向上のため、講師先生による研修会だけでなく、書籍による共通理解や個々の教材研究、学年間での話し合いを深めていくことが今後の課題である。
- ④ 今後、全学年での外国語活動が実施されることを考えて、学年に応じた教材の整備や教員の外国語指導に関する研修会を実施する必要がある。

※取組内容の――部は、校長経営戦略(加算)経費がとれなかつたため実施できていない。

大阪市立堀川小学校 平成27年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【視点 道徳心・社会性の育成】</p> <p>① 児童相互の人間形成を図るため、児童の状況に応じた多様な支援に取り組む。場に応じた挨拶ができる児童を増やす。（事前事後に児童の実態調査を実施する）</p> <p>② 配慮を要する児童に対する校内外の研修に積極的に参加し、組織立てた取り組みを実践する。</p> <p>③ 特別支援教育を充実させ、生活の自立に対して、保護者と共に評価できるようとする。</p> <p>④ たてわり班活動を活発に行い、たてわり班長を中心とした活動の充実を図る。</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【規範意識の育成】</p> <p>来校者や担任以外の教職員に対して場に応じたあいさつができるように指導する。</p> <p>（ガバナンス改革）</p> <p>指標 学期に1回「あいさつ運動」を実施し、チェックカードを作り、児童相互で確認し合う。</p> <p>学年末に全校児童の「できた」「よくできた」を80%以上にする。</p>	B
<p>取組内容②【人権教育の充実】</p> <p>配慮を要する児童に対する研修会を実施し、サポート体制を整える。</p> <p>（カリキュラム改革）</p> <p>指標 研修会をもち、月1回サポート委員会を設定し、具体的な支援の手立てについて話し合う。</p>	A
<p>取組内容③【特別支援教育の充実】</p> <p>「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」を作成し、教職員間で共通理解をする。保護者と共に「個別の指導計画」について評価し合う場を設ける。</p> <p>（カリキュラム改革）</p> <p>指標 年2回教職員間で共通理解をする場をもち、学期に1回個別の懇談会をもつ。</p>	A
<p>取組内容④【仲間づくりの充実】</p> <p>たてわり班長を中心として、たてわり班での異学年交流を深める。</p> <p>（カリキュラム改革）</p> <p>指標 秋のオリエンテーリングで班のメンバーが「楽しかった」という感想を90%以上にする、かつたてわり班長による達成度を80%以上できた、よくできたにする。</p>	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ① 日々のあいさつについては93%の児童があいさつはできていると答えた。またあいさつ週間を設け、チェックカードを活用しながら子どもに意識付けをしたことで、昨年よりもあいさつができるようになったと答えた児童は79%、自分から進んであいさつができたと答えた児童は84%いた。しかし、来校者に対しては、ほぼ半数の児童しかできたと答えていなかった。
- ② 計画通り実施できた。各クラスでどのようなサポートが必要であるのか話し合い、できる限りサポートに入ることができた。
- ③ 計画通り実施できた。3学期は特別支援学級のみ個人懇談会を持ち、必要に応じて担任もそこに入り、来年度の指導に繋げる話し合いをすることができた。
- ④ 毎週の児童集会やたてわり班遊びを通して異学年交流ができた。オリエンテーリングで「楽しかった」と答えた児童は94%、たてわり班長による達成度は98%だった。

次年度への改善点

- ① 来校者や場に応じたあいさつに対してどのようにあいさつをしたらよいのかを具体的な場面を映像等にしたものを作成して指導していく。
- ② サポート委員会の議事録を取り、参加していない教職員に対してサポート体制と知らせていく。学期に何回かは職員会議後の児童理解の時にサポートが必要な児童やどのようなサポートをしているのかを共通理解していく。
- ③ 来年度も継続していき、個別の教育支援の方法を保護者と共に共通理解し、連携していく。
- ④ 班長の育成については6年生の担任だけでなく、班の担当者が班長の育成にかかわっていく。

大阪市立堀川小学校 平成27年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【視点 健康・体力の保持増進】</p> <p>① 児童が生涯にわたる健康の基礎となる運動習慣や食習慣などを確立する。狭い運動場にも対応できるよう、体育授業の工夫を行ったり、体育的な行事を工夫したりして、体力調査で全国平均を下回る種目について、全学年で向上させる。</p> <p>② けがの予防に努め、前年度の実績よりけが発生率を抑える。</p> <p>③ 健康に関する取り組みや指導を通して、基本的な生活習慣を確立し、「早寝、早起き、朝ごはん」の実践力を高める。</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【体力向上】</p> <p>運動場の広さが十分でない中であっても、体力の向上に向けて、教職員研修をすすめ、体育学習や体育的行事の内容を工夫する。</p> <p>(マネジメント改革・カリキュラム改革)</p> <p>指標 立ち幅跳びの記録を6月と1月の2回とり、1回目より2回目を向上させるとともに、個人の記録を前年度より向上させる。</p>	B
<p>取組内容②【安全教育】</p> <p>けがマップの掲示やTV朝会・児童集会での啓発により、ルールを守り安全に生活しようとする意識を高め、運動場の広さが十分でない中であっても、けがの発生率が増えないようにする。</p> <p>(マネジメント改革・カリキュラム改革)</p> <p>指標 けがが起きやすい場所を表すマップを掲示したり、TV朝会・児童集会で正しい遊び方や歩行の仕方を啓発したり、けがを防ぐ体操に取り組んだりし、けがによる病院受診率を昨年度より抑える。</p>	A
<p>取組内容③【健康な生活習慣】</p> <p>健康週間の実施で、手洗い・うがい・歯みがきの習慣が身につくように指導する。</p> <p>(マネジメント改革・カリキュラム改革)</p> <p>指標 学期1回の健康週間と夏休み・冬休みに、チェックカードを用いて振り返りを行い、1学期より3学期の結果を向上させる。夏休み・冬休みの結果は、前年度より向上させる。</p>	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ① 児童数が多く、運動場の広さが十分でない中、かけ足集会や堀川マラソンなど、体力の向上に向けて体育的行事を行うことができた。体育実技研修会を行い、体育学習の内容を工夫することで、学年の実態に応じて体力の向上に取り組んだ。紹介した内容を体育学習や遊びの時に取り入れることで、進んで運動する児童が増えた。
- ② 安全な生活をしようとする意識を児童にもたせるよう、校内ルールの指導（廊下階段の歩行・運動場の使い方など）、学期ごとに歩行週間を実施、けがマップの作成・掲示などを行った。その結果、けがの件数は、昨年度より減少した。
- ③ 日々の指導、学期ごとの健康週間の取り組み、チェックカードを用いて振り返りを行うことで、手洗い・うがい・歯みがきの習慣は身についてきた。カードに家庭でもチェックする欄を設けて家人と一緒に振り返りができるようにすることで、家庭にも意識づけることができた。手洗い、うがいをしなかった児童の割合は学期が進むにつれ減少した。

次年度への改善点

- ① 工事のため運動場が狭くなるので、休み時間や体育学習の運動場の割り当てを見直し、運動量を確保できるようにする。体力向上に必要な運動を行うための基礎となる体幹を鍛えるための取り組みを検討していく。
- ② 病院受診率は昨年度よりも増加しているので、けがの原因の分析をもとに対策を考える。安全な生活をしようとする意識に児童の中でも差があるので、継続して指導を行う。
- ③ 健康週間のチェックカードの結果をもとに、保護者に「手洗い・うがい・歯みがき」の習慣の様子を学校だよりなどで知らせ、家庭への啓発を行う。

大阪市立堀川小学校 平成27年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【視点 本校の特色と課題の克服】</p> <p>① 本校が保護者や地域住民をはじめとする学校関係者の協力を得て、学校の特色と課題に取り組む。伝統あるマーチングをより特色あるものに創作する。</p> <p>② 幼小連携の取り組みに対して打ち合わせを行い、児童、幼児にとっても、指導者にとっても充実したものにする。</p> <p>③ 校内の美化を計画的に推進し、美しい学校をつくる。</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【地域連携の充実】</p> <p>マーチングの取り組みについて、全職員・保護者・地域へ、練習等の進捗状況を発信し、共通理解を図りながらより良いものを目指す。</p> <p>(ガバナンス改革)</p>	A
<p>指標 「マーチングに取り組んで良かったと思う」の項目について、児童・保護者とも「そう思う」「どちらかといえばそう思う」が80%以上になるようにする。</p>	
<p>取組内容②【幼小連携】</p> <p>事前事後の打ち合わせを行い、その内容を記録として残すとともに、互いの交流が深まるように交流内容を工夫する。</p> <p>(カリキュラム改革)</p>	A
<p>指標 年間計画に基づき、クラス単位の交流を工夫し、「小さな子に対して優しく接することができた。」という項目について、過半数の児童が「そう思う」と答えられるようにする。</p>	
<p>取組内容③【環境整備】</p> <p>普段から、校内を美しくする意識を児童・教職員ともに高め、計画的に環境整備を行っていく。</p> <p>(カリキュラム改革・ガバナンス改革)</p>	B
<p>指標 環境委員会の児童による清掃点検を生かし、学校を美しくしようとする意識を育てる。また、清掃の行き届いている場所の発表を月1回行う。</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ① 計画や進捗状況を学校便り・HP 等で発信し、視覚面は外部講師に委託することで負担軽減を図り、新しいスタイルのマーチングを提案することができた。児童・保護者ともに 90%が「取り組んで良かった」と答えたので、目的は達成できた。
- ② 年間計画に基づき、「工夫した内容で」また「例年より多い回数で」取り組んだことにより、交流が深まった。
「過半数の児童が、小さな子に対して優しく接することが出来る」という指標は達成された。
- ③ 環境委員会による点検・表彰が励みになり、校内美化を意識する児童は増えてきた。

次年度への改善点

- ①・(6 年生担任教諭・児童ともに) みんなが無理なく取り組めるスタイルを考える。
 - ・指導の流れを明らかにして、引継ぎがスムーズに行えるようにする。
 - ・運動場が狭くなることへの準備 (2016 年度)
- ②・廃園に伴い、次年度はどのような取り組みにしていくのか。
- ③・まだ清掃の行き届かない場所があり、意識の低い児童もいる。効果的な活動を考える必要有。
 - ・指導者側の意識を高めることも必要。
 - ・この部会に環境委員会の担当者が居るようにする。